

# 会誌

2025  
第56号



山形市小学校長会

# 目次

	ページ
1 各専門部紹介	1～ 2
2 巻頭言	3
3 各専門部活動報告	
(1) 学校経営部	4～ 5
(2) 教育課程部	6～ 7
(3) 生徒指導部	8～ 9
(4) 健康教育部	10～11
(5) 行財政部	12～13
(6) 特別支援教育部	14～15
4 校長会の取り組み	16～17
5 本年度のあゆみ	18～19
6 活動方針	20～21
7 組織と係分担	22～24
8 会員一覧	25

## 令和7年度 専門部会

### 学校経営部

◇教育 DX の推進と組織マネジメントによる教職員が生きる学校経営

- ① 校務支援ソフトの有効活用についての研究
- ② 児童用タブレット・電子黒板の効果的活用についての研究
- ③ 様々なキャリアステージの教員を生かすチーム体制のあり方の研究



### 教育課程部

◇持続可能な教育課程の創造と次代を担う教員の育成

- ① 持続可能で魅力ある教育課程編成についての研究を深める。
- ② 教育課題の改善や学校経営の向上につながる人材育成に資する研修を実施する。

### 生徒指導部

◇豊かな人間性を育てる生徒指導の推進

- ① 児童理解を深め、関わり合う力の育成を目指し、提言できる活動に努める。
- ② 学校と家庭・地域・異校種・関係機関との連携・接続を密にした生徒指導の推進を図る。





## 健康推進部

◇たくましくしなやかに生きる子どもの育成

- ① 健康・安全教育の推進を図るための研修及び情報の収集に努める。
- ② 生涯にわたって健康で安全な暮らしを整えていく子どもを育てる。

## 行財政部

◇学校における教育効果を高め、働き方改革を支える教育条件整備と充実

- ① 学校経営・施設設備・教育環境等の課題を明らかにし、教育効果を高めるための人的・物的・財政的な諸条件の整備・充実に努める。
- ② 学校教育活動や教育条件整備の改善を図るため、県連小・県小中合同対策委員会・市中学校長会と連携しながら活動を進める。



## 特別支援教育部

◇特別支援教育における人材育成と相談体制の充実に向けて

- ① 切れ目のない支援や校内の支援体制について探るとともに、行政や各種学校との連携を図り、小学校現場の声を伝える働きかけを行う。
- ② 研修の成果や情報を校長会全体に発信する。





## みんなが笑顔の学校を目指して ～変化を恐れない持続的な挑戦～

山形市小学校長会 会長 大城 勝利

『暗いと不平を言うよりも、あなたが進んで灯りをつけなさい。』 マザー・テレサ

マザー・テレサは、物事に対して不平不満を言う前に、自らが希望や目標となって現状を変えていくことが大切であることを説いています。自分の置かれた環境に不平を言うのではなく、自分から進んで行動し、その環境をよりよいものとする光を与えられるようにしなさい、と語りかけているのです。

そして、我々校長も、先頭に立って灯りとともし進むべき道を照らすとともに、職員の心に火をつけ、学校を背負って立つ気概をもった教員を育て、学校教育の安定的持続性を保っていくという大きな使命もっています。

山形市小学校長会は会員38名を有し、その時々々の教育課題を議論しながら、解決に向けて進んできました。それぞれの専門性と知恵、実践を持ち寄って共有し、議論することで校長としての実践力向上に多大な貢献をしてきたと言えます。

今年度も、会員全体の課題意識の中から中心協議のテーマを設定し、各専門部の創意工夫による研修を行うことができました。会員同士の話し合いを大切に、講演を聴いた後に小グループで話し合いの時間を設定する等、知識と実践が結びつき、次の一手を打つためのヒントとなった場面が数多く見られました。私自身、会員諸氏の課題意識とそれを解決するための挑戦(実践)に刺激を受けたと共に、真摯に学校経営に取り組む姿勢に勇気づけられました。

「最も強いものが生き残るのではない。最も賢い者が生き残るのでもない。唯一生き残る者は変化できる者である」とチャールズ・ダーウィンが言いましたが、全連小の松原 修会長も、今の教育界に必要なのは『変わらないために変わり続ける』ことだと述べています。

松原会長は、全連小教育研究協議会福岡大会で、基本的な資質・能力を確実に身に付けさせる学びの在り方をアップデートしていくことが小学校教育の使命であること、教職員の力を引き出し、地域や家庭と連携し、挑戦を後押しする学校文化を創ることが、校長が果たすべき重要な役割であると述べています。更に、中央教育審議会の教育課程企画特別部会で示された論点整理について「この(論点整理の)考え方を踏まえ、今後のワーキンググループ等での議論の展開を見据えつつ、今自分たちにできることを見定め、着実に歩みを進めていく必要がある。このかじ取りこそ校長のリーダーシップに懸かっている。」と、全国の校長に指導力発揮を呼び掛けました。

日本の教育は転換点にきています。これは誰もが感じており、教育だけではなく、日本を含む世界の常識、価値観が大きく変化しようとしていることを皆が実感しているのではないのでしょうか。

山形市小学校長会も、学校に関係する人々全員の幸せを目指し、世の中の流れを掴みながら、変化を恐れず挑戦し続けたいものです。そのために、今後も会員相互の学校経営に関する情報交換と共有、建設的な話し合いを継続していきたいと考えます。

結びに、ご指導いただきました山形市教育委員会と村山教育事務所の皆様、並びに講師をお引き受けいただいた皆様に心より感謝申し上げます。

# 学校経営部



## 教育 DX の推進と組織マネジメントによる

## 教職員が生きる学校経営

山形市立大郷小学校 鎌田 史顯

### I はじめに

山形市内の小学校では、電子黒板と一人一台のタブレットの利活用は日常化し、児童も教職員も ICT は欠かせないものになっている。しかし、児童個々の学びの主体性の高まりや、教職員の業務の効率化や情報管理における安全性向上、次々と導入されるアプリケーションを使いこなすことなどについては、さらに改善できる余地を感じている。また、校務支援ソフトの導入から3カ年が経過したものの、校務全般での使用には至っていない状況であり、導入の有益さや効果を十分に実感できていない。

そこで、学校経営の一層の充実を図るため、本部会では、積極的に ICT を活用した教育実践と校務効率化の推進を目指し、「教育 DX の推進と組織マネジメントによる教職員が生きる学校経営」を今年度のテーマとして研究を深めた。

### II 活動方針

山形市小学校校長会活動方針に基づき、以下のテーマと研究に取り組むこととした。

#### 1 研究主題

「教育 DX の推進と組織マネジメントによる  
教職員が生きる学校経営」

#### 2 研究内容

- ①校務支援ソフトの有効利用についての研究
- ②児童用タブレット・電子黒板の効果的活用についての研究
- ③様々なキャリアステージの教員を生かすチーム体制のあり方の研究

### III 本年度の活動

#### 第1回部会（4／11）

- ①組織作り、役割分担
- ②活動方針、年間活動計画の協議

#### 第2回部会（5／9）

##### 【ICT利活用・校務DXの現状と課題の把握】

- ①部員各校における「ICT・校務支援ソフト」等の利活用についての情報交換
- ②課題の把握と取り組みの方向性の検討

#### 第3回部会（6／6）

##### 【校務支援ソフト担当者との打ち合わせ等の進捗・「こころの天気」導入に向けての検討】

- ①「各学校から挙げられた課題や改善等の要望」について、校務支援ソフト担当者との打ち合わせ内容や交渉の進捗状況の報告
  - ・今後の山形市での利活用に合わせたカスタマイズの提案内容の検討
- ②新たに導入され、利用が始まる「こころの天気」についての学校での有効な導入と活用についての検討
  - ・「導入マニュアル」の作成
  - ・「導入のねらい」と「学習目標」の設定
  - ・校長会、教頭会、市小教研等での研修の実施
  - ・児童及び保護者への利用開始の通知の仕方
  - ・「相談ボックス」「共有ボックス」などの利用などについての「山形市のカスタマイズ」についての検討
  - ・各学校での導入の方法についての検討

#### 第4回部会（7／11）

##### 【導入マニュアルの検討と「こころの天気」・校務支援ソフト担当者との打ち合わせ内容】

- ①学校経営部で作成した山形市小中学校「こころの天気導入マニュアル」について内容の検討・細部確認
- ②9月9日に開催する「小中合同中心協議」の内容の検討と役割分担

#### 第5回部会（9／9）

##### 【学校経営部が提案する小中合同中心協議】

###### 《内 容》

- ①中心協議題の設定の趣旨説明  
市小校長会学校経営部より
- ②市教委から「こころの天気」導入の基本姿勢・運用についての説明  
市総合学習センター副所長・まなび支援係長・ICT教育推進係長 山川直樹 様
- ③エデュコムより操作研修  
(株) エデュコム  
インストラクター含む7名参加  
・児童画面での入力方法  
・指導者・管理画面での確認方法  
・「悩み相談」の閲覧可能者の変更方法など
- ④小校長会より「指導マニュアル」の提案  
市小校長会学校経営部より
- ⑤質疑応答  
・小中校長会で「導入マニュアル」についての共通理解が図られたので、小中教頭会でも研修を実施して欲しい など

##### 【(株) エデュコムとの学校経営部の話し合い】

- ①インストラクター含む7名のエデュコムの方々と学校経営部で導入に向けての話し合いを持った  
・「悩み相談ボックス」で、相談の依頼があった時に「アラーム」等の機能が欲しい  
・指導者用タブレットではなく、校務用ノートPCでも入力確認等の操作を可能にして欲しい など

#### 第6回部会（10／10）

##### 【「こころの天気」導入について】

- ①小中教頭会の導入研修の実施について
- ②各校の導入計画や課題についての情報交換
- ③保護者向け案内プリントの作成について
- ④11月予定のタブレットの交換・トップ画面へのアイコン設定について

#### 第7回部会（12／12）

- ①タブレット交換の遅れと導入について
- ②新タブレットの性能やスペックについて

#### 第8回部会（2／6）

- ①今年度の活動の反省
- ②次年度の方向性検討

#### IV 今年度の取り組みの反省と課題

「校務支援ソフトの活用方法について、導入業者との話し合いの実施」や「新規導入ソフトウェアについて、本市での活用方法の検討」、さらに「マニュアル作成」と研修会を実施した。教育現場の生の意見を、市教育委員会や導入業者の皆様に届けると共に、今後も「児童と教職員のために、より良い利活用を目指すチーム」となって取り組む、貴重な第一歩を踏み出すことができた。

特に、「こころの天気」導入に関わっては、本部会が全小中学校で活用するマニュアルを作成し、導入に向けて協議を重ね、数多くの改善が図られた「山形市版カスタマイズ」が実現している。

今後、校務支援ソフトを中心とした校務のDX化について、市教育委員会と連携を深め、校長会として積極的に参画することによって、教育効果が大きく、効率的で有効な運用を実現していきたい。

---

##### 学校経営部員

- 石澤友章（山一小） 大沼清司（山二小）  
大城勝利（滝山小） 鈴木章人（蔵一小）  
○遠藤克裕（南山形小） 馬場 賢（みはらし小）  
森山謙一（西山形小） 早坂和重（山大附小）  
◎鎌田史顯（大郷小）
-

# 教育課程部



## 持続可能な教育課程の創造と

## 次代を担う教員の育成

山形市立明治小学校 中村 昌彦

### I はじめに

今年9月に中央教育審議会・教育課程企画特別部会にて、次期学習指導要領(2030年)に向けた「論点整理」が報告された。素案によると、改訂論議を貫く次の3つの方向性が示されている。①深い学びの実装 ②多様性の包摂 ③実現可能性の確保。そこで集約されている現行学習指導要領の課題は3点。「資質・能力の深まりのイメージが掴みにくい」、「資質・能力の複数の柱を一体的に育成するイメージが掴みにくい」「教科書『を』教える授業、「本時主義」からの脱却に至っていない」。いずれも、悩ましい課題であることは間違いない。

教育課程部では、様々な教育課題が浮かび上がる学校現場の中で、何よりも子どもの育ちを核とした、「持続可能な教育課程創造」と「次代を担う教員の育成」という2本の柱で研究を行った。

### II 活動計画

#### 1 活動方針

- (1) 持続可能で魅力ある教育課程編成についての研究を深める。
- (2) 教育課題の改善や学校経営力の向上につながる人材育成に資する研修を実施する。

#### 2 活動の柱

- (1) 情報の収集・分析を基にした、持続可能な教育課程の推進
- (2) 次年度の教育課程編成資料の作成
- (3) ミドルリーダーの育成を図る研修の実施
  - ① 教務主任研修会(8月、12月)
  - ② 主任等法規研修会(8月)

### III 本年度の活動

#### 1 部会

- (1) 第1回(4月11日)
  - ・研究主題(テーマ)・活動内容の検討
  - ・年間計画作成 組織づくり
- (2) 第2回(5月9日)
  - ・主任等法規研と教務主任研の細案検討
- (3) 第3回(6月6日)
  - ・主任等法規研と教務主任研の役割分担
- (4) 第4回(7月11日)
  - ・主任等法規研と教務主任研の最終確認
- (5) 第5回(9月9日)
  - ・中心協議(11月校長会)の内容検討(講師依頼、進め方について)
- (6) 第6回(10月10日)
  - ・中心協議「幼小接続」に係る運営・役割分担
- (7) 第7回(11月7日)
  - ・中心協議「本気の幼小接続(学びの接続)に向けて! 2人の園長先生が熱く語る」(シンポジウム形式)
- (8) 第8回(12月12日)
  - ・12月実施第2回教務主任研修会報告
  - ・令和8東北地区連小発表に向けた細案検討、見通しの確認
- (9) 第9回(2月6日)
  - ・R8年度以降の市全体の事業の方向性の確認と第2回教務主任研修会の総括
  - ・今年度の成果と課題
  - ・次年度の方向性の検討

## 2 11月定例校長会議 中心協議の話題

### (1) テーマ

「本気の幼小接続（学びの接続）に向けて！

2人の園長先生が熱く語る」（シンポジウム形式）

### (2) 内容

①講師：大谷幼稚園長 時田 厚 氏  
山大附属幼稚園長 高梨明恵 氏

②各園の取組み・ビデオ視聴、意見交流

- ・幼稚園から  
感性を育む、自分らしさを育む。
- ・小学校から  
先生方がきちんとさせ過ぎる  
子どもの話をもっと聞いてみては。

## 3 研修会

### (1) 主任等法規研修会（8月5日 a.m.）

#### ① 内容

- ・講話 事例演習

#### ② 講師

- ・村山教育事務所  
武石 茂久管理主事

### (2) 第1回教務主任研修会（8月5日 p.m.）

#### ① テーマ

「持続可能な教育課程の創造」

#### ② 内容

- ・講話「教務主任の役割」部会長
- ・グループ研修

事前に「持続可能な教育課程の創造」に関わるテーマで実践等を、プレゼンソフトで作成。それを同規模校グループで発表し合い、意見交流。（グループ）  
・各自のタブレットでMicrosoft teamsを用い、エクセル等の共同作業機能で意見交流（全体）、感想打ち込み

【各校からのレポートテーマから】 延べ数

- ・行事・日課表の工夫・見直し 17
- ・学校研究を中心とする教育課程 9
- ・教育相談・児童理解のための取組 9
- ・地域との連携・地域学校協働活動 8
- ・その他（放課後のゆとり創出、教科担任

制、縦割り活動推進、若手教員育成、基礎学力の定着、評価の在り方）

### (3) 第2回教務主任研修会（12月5日）

#### ① テーマ

「持続可能な教育課程の創造」

#### ② 内容

- ・グループ研修  
R8年度教育課程編成の基本的な考え方、進捗状況、悩み等について情報交換
- ・全体確認  
a) 幼保小連携 b) 業務時間確保のための工夫 c) 各教員の分掌を視点として考えてもらうための工夫を全体場で共有。



## 4 次年度の教育課程編成について

### (1) 授業日数について

204日程度とする。

### (2) 中学校や関係機関との連携

小中連携の観点から以下の行事を原則として市内各小学校同日とした。ただし、小中併設校はこの限りでない。

- ・入学式 R8年4月 9日（木）変更決定
- ・卒業式 R9年3月18日（木）固定
- ・お別れ会 R9年3月29日（月）予定

## IV おわりに

教務主任研修会において、児童数が同規模の学校でグループ作成、タブレットを活用して意見交流・情報交換を行ったことは概ね好評であった。教育課程編成の目的は学校教育目標の具現化であり、子ども達にどんな力を付けたいのか共有できたという意見が多かった。次年度教育課程編成の参考になれば幸いである。

教育課程部員

- ◎鈴木 伸治（鈴川小） ○中村 昌彦（明治小）
- 武田 重泰（出羽小） 山科 典子（蔵王二小）
- 富樫 朗（山六小） 小沼裕佳理（山七小）

# 生徒指導部



## 豊かな人間性を育てる生徒指導の推進

山形市立桜田小学校 須藤 克郎

### I はじめに

本部会では、研究主題「豊かな人間性を育てる生徒指導の推進」のもと、校長の果たすべき役割と指導についての研修を深めると共に、校長会に提言できる活動を進めてきた。

### II 活動方針

研究主題

豊かな人間性を育てる生徒指導の推進

- 1 児童理解を深め、関わり合う力の育成を目指し、提言できる活動に努める。
- 2 学校と家庭・地域・異校種・関係機関との連携・接続を密にした生徒指導の推進を図る。

### III 活動のあゆみ

第1回部会（4/11）

- ・活動方針検討、組織づくり、年間計画作成
- ・生徒指導アンケートの検討
- ・情報交換

第2回部会（5/9）

- ・「不登校」に関わる現状についての情報交換
- ・前年度生徒指導アンケートの分析と

活用方法の検討

第3回部会（6/6）

- ・研修1「管内の児童・生徒の問題行動とその防止に向けた取り組み」

講師 村山教育事務所 青少年専門員

大木 隆幸 氏

第4回部会（7/11）

- ・研修2「市内の児童・生徒の問題行動とその防止に向けた取組」

講師 山形県山形警察署 企画調査官

田中 恵美 氏

第5回部会（9/9）

- ・10月全体研修での役割分担確認等
- ・情報交換

第6回部会（10/10）

- ・中心協議

「不登校防止対策と不登校児童への具体的な対応」～校長に期待すること～

講師 山形駅前カウンセリングオフィス所長

山形県公認心理師・臨床心理士協会会長

山形市教育委員会教育委員

伊藤 洋子 氏

第7回部会（12/12）

- ・全体研修の振り返り
- ・これまでの生徒指導アンケートの分析
- ・情報交換

第8回部会（2/6）

- ・年間反省と次年度の課題
- ・情報交換

### IV 今年度の取り組みから

1 毎月実施の生徒指導アンケートについて

- ・結果をもとに、事例の共有化を図り、各校の実態に応じた生徒指導に活かせるようにした。

## 2 生徒指導研修について

### 研修1「管内の児童・生徒の問題行動と

#### その防止に向けた取り組み」

社会情勢が変わる時に問題行動が増加。

その対策として、

【安全安心な環境を確保】未然防止の指導体制、  
ルールの遵守、安全管理を徹底させる。

【日常を観察】些細な問題行動も無視放置しない  
こと。暴力行為が発生…毅然とした対応をする。

【児童と教職員を守る】警察に通報し、支援を求  
める…相談・通報のメリットは大きい。

\*警察は学校の重要なパートナー

連携体制（学校警察連絡協議会、サポートセンタ  
ー、スクールサポーター）をしっかりととってい  
くこと。

### 研修2「市内の児童・生徒の問題行動と

#### その防止に向けた取り組み」

刑法犯少年は増加・多様化。その傾向として、

- ・動機を言語化できない
- ・悪いことをしているという自覚がない
- ・話を通じない（数や時間の概念がない）
- ・世代間連鎖（問題を抱えた親の子が問題を起こす）

が挙げられる。

世代間連鎖を止めるためにも、言葉の力・学力  
の定着が大切…日々の学習の積み重ねの重要性が  
求められる。

### 研修3 中心協議

#### 「不登校防止対策と不登校児童への

#### 具体的な対応」～校長に期待すること～

《リスクが高い児童》

注意深い見守りと関わりが必要

…積極的に関わるのが予防の第一歩

《不登校の要因と対応》

登校できない理由を正確に見立てる必要あり。

- ・情報共有／ケース会議
- ・家庭での過ごし方を把握…要受診か見極める。

《不登校からの回復プロセスとその対応》

- ・回復に向かうまでに4段階ある。

それぞれの時期で適切な対応が異なるその対応  
策を把握しておくことが重要。

《新たな不登校対策と課題》

不登校の背景…家庭内問題が隠れているかも。

自己肯定感が低い⇒学校で困難に直面しやすい。

- ・スキンシップ・共感的な関わり⇒心の安定に。
  - ・共感的な声かけ⇒感情をコントロールする力に。
- 《校長の役割と校長へのお願い》

(1) リーダーシップの発揮と理念の共有

- ・文科省・県・市の理念を全員で共有する。

教師一人一人が「我が事」として捉える。

- ・教育について語り合う時間を設定：主体性、  
協働性を持って教育活動できる環境づくり。

(2) ケース会議の実施とSCの活用

- ・詳細なケース会議の実施と、SCを交え専門  
的な見立てと対策を立てる。

(3) 性暴力・性加害への意識

- ・児童生徒間の性暴力・性加害の問題の意識を  
高めてほしい。特に加害児童に早期の専門的  
な介入が再発防止に不可欠である。



## V おわりに

毎月の生徒指導アンケート調査結果の事例報告  
や情報共有を通して、効果的な生徒指導を推進で  
きるようになってきた。

多様化する生徒指導事案が増えており、関係機  
関との連携を図りながら、最新の情報と現状を把  
握しながら、更に研修を推進していきたい。

### 生徒指導部員

- ◎樋渡美千代（山十小） ○須藤 克郎（桜田小）  
森谷 弘昭（千歳小） 佐藤 勝子（楯山小）  
山口 雅和（南沼原小） 三浦 浩子（蔵王三小）  
晋道 康史（大曾根小）

## 健康教育部



### たくましく しなやかに生きる子どもの育成

山形大学附属幼稚園 高梨 明恵

#### I はじめに

現代社会の加速度的な変化と、それに伴う子どもたちを取り巻く環境の複雑化により、学校における「健康」と「安全」の教育のあり方は、新たな課題と重責を担っている。情報過多やストレス社会の中で、子どもたちが自ら心身の健康を維持し、予測不能な危機に適切に対応できる能力の育成は喫緊の課題である。このような背景のもと、本部会では、「たくましく しなやかに生きる子どもの育成」を研究主題として設定し、研修を進めてきた。各校の実践に基づく情報交換、専門家を招いた研修会の実施、喫緊の健康・安全課題に関する情報収集など、互いに事例を共有しながら研修を深めてきた。

#### II 活動方針

山形市小学校長会活動方針に基づき、研究主題の「たくましく しなやかに生きる子どもの育成」に沿って活動を行った。

活動方針は以下の通りである。

- 1 健康・安全教育の推進を図るための研修及び情報の収集に努める。
- 2 生涯にわたって健康で安全な暮らしを整えていく子どもを育てる。

#### III 本年度の外部講師招聘研修

第3回部会（6／6）

「こどもの自殺と児童生徒の

SOS の出し方教育」

講師：山形市保健所 精神保健・感染症対策室

精神保健係 係長 安藤 さゆり氏

#### ○自殺の現状

全国の自殺者は3万人を超える状態。新型コロナウイルス感染症拡大時に自殺要因となり得る様々な問題が悪化した。山形県は、減少傾向が続いていたが令和3年増加（全国ワースト3位）。令和4年以降減少した。山形市は増減を繰り返しながら減少傾向。

#### ○自殺の原因

- ・小中高生は自殺の原因が「不詳」である割合が高く、学校段階が上がるにつれ、その割合が低下する。「家庭問題」の割合が高いのは、男女ともに小学生。

家庭問題とは、しつけ・叱責、親子関係の不和等のこと。

- ・「健康問題」（うつ病や精神疾患などの病気の悩み等）の割合が高いのは女子高校生。
- ・「学校問題」（学業不振、学友との不和、進路に関する悩み等）の割合が高いのは男女共に中学生と男子高校生。
- ・長期休業明けの小中高生の自殺  
8月後半から増加し、特に夏休み明けが多くなっている。

#### ○こども自殺対策緊急強化プラン

【文部科学省・厚生労働省令和5年6月】

子どもが自ら命を絶つことのない社会を実現するために取りまとめられた。すべての児童生徒が「SOSの出し方教育」を年1回受けられるよう周知する。子どものSOSをどのように受け止められるかについて、教員や保護者が学ぶ機会を設定する。

### ○児童生徒のSOSの出し方教育

様々な困難・ストレスへの対処方法を身に付けるための教育。適切な援助希求行動ができるようにすることを目的とする。・精神的な負担が長く続くと脳と心が疲れてくる。

- ・難しい事は沢山あるので、自力で助けを求めたり、求めやすくするように声をかけたりすることが大事。
- ・自分は価値ある存在で、いたわることが大事。

### ○基本的な関わり

- ・頼れる人を増やす。
- ・今あるつながりを安心感の持てるものに

### 第7回部会（12/12）

「今こそ包括的性教育を」

講師：思春期保健相談士・元養護教諭

“人間と性”教育研究協議会 山形サークル

山形県デートDV防止出前講座講師

高山 みつる 氏

### ○包括的性教育とは

ユネスコが発行している「国際セクシャリティ教育ガイダンス」に基づき、世界的なスタンダードとして広まっている。「性を通じた豊かな人間関係」を作り上げる力を育てる教育。

### ○子どもたちの現状と取り巻く環境

犯罪に走りやすい環境をネットが作りだしている。ネットに集約されることで、子どもの問題が見えにくくなっている。

### ○性に関わる問題で傷つく人を作らないためには

- 1 加害者を作らない教育が必要
- 2 自己肯定感の形成、自己確立

### ○包括的性教育の3つの要素

- 1 エビデンスに基づいた科学的なからだの仕組みの理解
  - ・自己理解・他者理解（からだの合理性を理解する）
  - ・プライベートゾーンは大切なところ

（自己肯定感：あなたは大切な存在）

- ・学校保健教育が土台（からだの理解）
  - ・望まない妊娠を避ける最良な方法は性行をさけること。
- 2 様々な人が自分の周りにいることの理解
    - ・学校での生活そのものが「共生」の学びのになり得る。
  - 3 全ての人々が尊重されるべき存在であることの理解
    - ・人権（他人も自分と同じ価値を持ち尊重されるべき存在であることの理解）
    - ・コミュニケーションの方法（同意とバウンダリー）
    - ・自分の人生と恋愛や性の関わり（人生の目的が恋愛ではない）

### ○実施方法

- ・年齢や発達段階、実態に合わせて
- ・家庭環境や個人の経験に合わせて
- ・基本は子どもをよく理解している担任が行うのが望ましい。
- ・教員自身も学ぶ機会を設ける。

## IV 今年度の取組から

今年度は、SOSの出し方教育や性教育についてなど、喫緊の課題について、最新の情報収集をする大変貴重な研修の機会を得ることができた。どちらも子どもたちが自分で考え、判断し行動する力をつける必要があることを再確認した。また、大人がどんな小さな声も受け止める心理的安全を担保することが不可欠であること、さらに、性教育の知識に留まらず、人間としての尊厳を尊重し合う姿勢を育むことの重要性も学んだ。

### 健康教育部員

- ◎結城 喜広（宮浦小） ○高梨 明恵（山大附幼）  
樋口 潤一（山四小） 小林 聡（西小）  
高橋 浩（金井小） 武田 裕子（山寺小）

# 行 財 政 部



## 学校における教育効果を高め

## 働き方改革を推進する教育環境の整備

山形市立第八小学校 豊田 博之

### I はじめに

本部会では、県及び市における学校教育環境の整備を進めるため、各校長の意見等を集約し、県及び市への要望書を作成して関係機関との懇談会等を通して丁寧に伝えてきた。

### II 活動方針等

#### 1 研究主題

『学校における教育効果を高め、  
働き方改革を推進する教育環境の整備』  
(5年次)

#### 2 活動方針

- (1) 学校経営・施設設備・教育環境等における課題を明確にし、教育効果を高めるための人的・物的・財政的な諸条件の整備・充実に努める。
- (2) 学校教育活動や教育条件の整備について、県小中合同対策委員会や市中学校長会と連携しながら要望書を作成し、懇談会等を通して伝える。

### III 活動の経過

- 4月11日(金) 市行財政部会①  
・活動方針 ・年間計画 ・組織づくり
- 4月21日(月) 県対策幹事会①  
・今年度の対策委員会活動内容等
- 5月1日(木) 県小中合同対策委員会①  
・今年度の対策活動計画 ・今後の日程等
- 5月9日(金) 市行財政部会②  
・アンケート集約方法等
- 5月12日(月)～26日(月)  
・市小学校長へのアンケート調査の実施

5月19日(月) 県教委・市教委との懇談

- ・教職員課長に「お願い」の手交
- ・山形市教育長に「お願い」の手交

6月6日(金) 市行財政部会③

- ・アンケート調査結果の取りまとめ等
- ・7月の中心協議に係る検討

6月11日(水) 県対策幹事会②

- ・県経営懇談会の持ち方等

7月10日(木) 県小中合同対策委員会②

- ・県対策幹事会③
- ・県経営懇談会に向けたグループ討議等

7月11日(金) 市行財政部会④

- ・中心協議「7教振に向けた学校経営」

8月1日(金) 県小中経営懇談会

- ・4つの重点事項に係る説明及び協議

9月9日(火) 市行財政部会⑤

- ・市に提出する教育条件整備文書の検討

10月10日(金) 市行財政部会⑥

- ・市に提出する教育条件整備に係る検討

10月20日(月) 山形市教委との懇談会

- ・「教育条件整備について」の説明と懇談

11月4日(火) 県対策幹事会④

- ・対策委員会③の持ち方等

12月3日(水) 県小中合同対策委員会③

- ・県対策幹事会⑤
- ・「お願い」(案)と手持ち資料の作成

12月12日(金) 市行財政部会⑦

- ・次年度の中心協議についての検討等

1月15日(木) 県対策幹事会⑥

- ・今年度総括と次年度の方向性に係る検討

2月6日(金) 市行財政部会⑧

- ・今年度総括と次年度の方向性に係る検討

#### IV 今年度の取組より

##### 1 県教委への要望における重点事項

- (1) 教育山形さんさんプランの更なる充実
- (2) 指導充実を図るための教職員の配置
- (3) 安定した学校経営が持続する教職員の採用及び 人事異動
- (4) 特別支援教育の一層の充実

##### ～県小・中校長会と県教委との 経営懇談会で話題になったこと～

- ・さんさんプランの制度全般について
  - ・役職定年制度について
  - ・拠点校指導教員について
  - ・前倒し産育休代について
  - ・新規採用教職員の配置について
  - ・スクールカウンセラーの任用について
  - ・別室学習指導員の配置について
  - ・60歳を超える方々の給与について
  - ・専門性の高い人材育成について
  - ・採用10年以内の特別支援担任について
  - ・特別支援に係る専科教員の採用について
- 学校現場における様々な課題を踏まえ、その解決方法等を探りながら話し合いが進んだ。形式的な情報共有や話題提供ではなく、より具体的な解決策に触れながら、今後の方向性について語り合うことができた。

##### 2 市教委への要望における重点事項

- (1) 質の高い活動の機会の確保とこれからの部活動の在り方についての検討
- (2) 特別支援指導員等のさらなる増員（小学校における全校配置の継続と中学校における全校配置、及び通年配置）並びに処遇改善や各校の実情に応じた複数配置
- (3) 施設開放の設置者主体の実施（登録団体のweb登録システム化、部活動地域展開への対応、施設修繕等要望窓口の一本化を含む）
- (4) 教育委員会、福祉部局、適応指導教室、フリースクール等の民間支援団体との連携を促進するためのシステムの構築と人員配置

- (5) 学びの多様化学校設置に向けた山形市教育委員会としての考え方の開示

##### ～市教委との教育条件整備に係る

##### 懇談会で話題になったこと～

- ・部活動地域展開に係る校内使用について
- ・部活動地域展開に係る指導者について
- ・部活動地域展開に係る大会等について
- ・第二次山形市特別支援計画について
- ・教頭業務削減に向けた検討内容について
- ・SSWC等について
- ・子どもの居場所づくりについて

部活動地域展開における課題、増加の一途をたどる特別な配慮を要する子どもへの支援、教頭業務を軽減するための方策、フリースクール等の民間支援団体との連携の在り方等をもとに、現状を深く見つめ直し、今後の対応の方向性について本音で語り合うことができた。教育委員会の思いと教育現場の思いを擦り合わせることで、今後の検討すべき点や努力すべき点等が明らかとなった。

#### V おわりに

子どもたちや学校を取り巻く環境が大きく変化しており、新たな課題が次々と湧出している。そのような中、県や市の関係各位より各校の実情に耳を傾けていただき、丁寧に検討していただいている。

山形市小学校長会では、いつの時代においても、子どもたちや教職員のために、学校の諸課題をもとに改善策を考え県や市に伝えてきた。これからも、中学校長会と連携を図り、よりよい学校教育環境の実現に向けて、行政と学校が互いに寄り添いながら取り組んでいかなければならないと考えている。

##### 行 財 政 部 員

- ◎豊田 博之（第八小） 高橋 和久（第三小）  
太田 千春（第五小） 沼澤 聡（第九小）  
黒原 裕一（本沢小）

# 特別支援教育部



## 特別支援教育における人材育成と 相談体制の充実に向けて ～切れ目のない支援や校内の支援体制の在り方～

山形市立東沢小学校 三木 弥生

### I はじめに

近年、特別支援学級の在籍児童数が増加傾向にあるとともに、通常学級においても、特別な配慮を要する児童の数が増えてきている。それに伴い、特別支援教育の役割は重要性を増し、校内支援体制の整備をはじめとする対応は急務である。そして、その充実のための校長の役割を確認したい。

### II 活動計画

#### 1 研究主題

特別支援教育における人材育成と相談体制の充実に向けて

#### 2 活動方針

- (1) 切れ目のない支援や校内の支援体制について探るとともに、行政や各種学校との連携を図り、小学校現場の声を伝える働きかけを行う。
- (2) 研修の成果や情報を校長会全体に発信する。

### III 活動内容

#### 1 部会の歩み

##### 第1回部会（4／11）

- ・ 活動方針、活動計画の作成
- ・ 組織づくり

##### 第2回部会（5／9）

- ・ 中心協議のふり返り
- ・ 今後の活動の確認

##### 第3回部会（6／6） 部内研修

- ・ 実技「リタリコ」を使ってみよう  
リタリコ株式会社

学校教育事業部長 松山 優 氏

##### 第4回部会（7／11） 部内研修

- ・ 講話「在籍児童生徒の卒業後の進路選択と療育手帳取得について」

山形県立上山高等養護学校

教頭 石澤 康至氏

##### 第5回部会（9／9） 部内研修

- ・ 特別支援学級のカリキュラムについて

##### 第6回部会（10／10） 部内研修

- ・ 講話「医療的ケアの現状と医療的ケア児について」

山形県立ゆきわり養護学校

医療連携部長 水戸 大童氏

##### 第7回部会（12／12）

- ・ 今年度の活動の成果と課題

##### 第8回部会（2／6）

- ・ 令和8年度の研修計画について

#### 2 具体的な活動

##### (1) 5月定例校長会議 中心協議話題提供

#### ① テーマ

「校内支援体制づくりと特別支援コーディネーターの育成～特別支援教育推進のための校長の役割～」

#### ② 内容

- ・ 講話「小学校における特別な支援が必要な児童への支援の在り方」

- ・ 講師

山形大学大学院教育実践研究科

准教授 川村 修弘氏

- ◇ すべての児童生徒を大切にす

- ・ニューロダイバーシティ（神経多様性）「障害」ではなく「個性」ととらえようとする考え方。
  - ・多様性を前提とした共生社会の実現。
  - ・「治す」より「活かす」視点へ。
- ◇ 教育的ニーズを把握する視点
- ・早期発見と早期支援が重要である。
  - ・発達特性とそれに関連して起きるトラブルを正しく理解すること。
  - ・「言語発達の遅れ」「社会的相互作用の困難」「注意・集中の困難」「多動・衝動性」「感情のコントロールの困難」「行動の問題」「発達の遅れ」「感覚の異常（過敏・鈍麻）」「睡眠」「摂食」「気分」「家族歴」を視点にもつ。
- ◇ 特別支援教育を推進する校内体制
- ・校内支援体制を可視化する。
  - ・コーディネーターのカリマネへの参画。
  - ・環境調整、行動療法、薬物療法。
- ◇ 家庭との連携＝協働作業
- ・立場の違いを認め合う。ビジョンを共有する。それぞれの立場でできることを考える。
  - ・情緒的サポートが肝要である。
- ◇ 医療機関との連携
- ・その前にできること（環境要因、本人要因の分析・悪化条件・環境調整・本人要因へのアプローチ）を実施する。
  - ・見通しをもった計画性ある教育相談。
  - ・医療が知りたい情報（集団での適応状態に関する情報・個別の特性）を整理して提出する。
  - ・医療と情報交換し一緒に子どもの状態像をつくりあげる。

### 3 研修

#### (1) 第3回部会 実技研修

「リタリコ」を使ってみよう

リタリコ株式会社

学校教育事業部長 松山 優 氏

- ・ 個別の支援計画作成の際に活用。実

態把握（＝アセスメント）をし、実態に合った計画を作成する。

- ・ 個別の支援計画には、就労に向けて身につけたい「自己理解」「自己決定」「自己発信」「意欲」を積み上げていく経験を盛り込みたい。

#### (2) 第4回部会 講話

「在籍児童生徒の卒業後の進路選択と大切に育てたいこと」

山形県立上山高等養護学校

教頭 石澤 康至 氏

- ・ 上高養の生徒と職員の大きなテーマは「働く人になる」である。社会的自立を目指し進路指導を行っている。
- ・ 小中学校でも大切にしてほしいのは「自己選択」「振り返りから自分を見直す」「見通しをもつ」「健康管理、日常生活、対人技能」「正しい判断ができる道徳性」ということである。

#### (3) 第6回部会 講話

「学校における医療的ケアについて」

山形県立ゆきわり養護学校

医療連携部長 水戸 大童 氏

- ・ 医療的ケアの項目や器具、衛生管理についての説明。
- ・ 学校での医療的ケアには「教育的意義」「医療的意義」「福祉的意義」がある。
- ・ 多職種連携となるので保護者との協働で相互尊重の姿勢を大切にしたい。

### IV おわりに

校長として、特別支援教育に関する認識を深め、理念を明確に理解して職員に示す必要性を再確認した。今後、「多様性」がキーワードになる流れの中で、特別支援教育の体制が組織として機能するよう統括することが学校経営に不可欠である。

————— 特別支援教育部員 —————

- ◎三木弥生（東沢小） ○横山 聡（南小）  
村山理香（村木沢小） 古原靖子（東小）  
菱川若葉（高瀬小）

# 不登校防止対策と不登校児童への具体的な対応

山形市小学校長会

## I はじめに

1 2年連続で増加した不登校の児童生徒は過去最多を更新し、令和6年度は全国で35万人を超えた。不登校の要因は様々で、改善への手立てを日々模索しているのが現状である。

そこで、校長自身が専門的知見を基に、改めて不登校について深く学ぶ必要があると考え、以下のような研修を計画・実施した。

## II ねらい

児童の特性や家庭環境、有効な対応事例を基に知見を深め、学校の組織的対策・対応に活かす。

## III 具体的な取組

- 1 期日 令和7年10月10日（金）
- 2 会場 山形市総合学習センター
- 3 講師 山形駅前カウンセリングオフィス  
県公認心理士 伊藤 洋子 氏  
(山形市教育委員会教育委員)

## IV 研修内容

### 1 不登校児童の予防

#### (1) 不登校の要因

- ・原因はいくつかのことが重なったときに起こりやすい

性格、対人関係への苦手意識、学業不振、家庭環境、いじめ、担任と合わない、発達障害、精神疾患等

不登校は、心の葛藤が行動化した現象であり、心のエネルギーが枯渇した状態である

▲「怠学」という言葉をいまだに聞く

#### (2) 不登校の段階と対応

##### ①前兆～前駆期

- ・いつもと違う様子気付いたら声かけを（休みがち、遅刻・早退が増える、表情が暗い、無口になる、一人でのいる…）
- 「なんか元気ないように見えるけど」「何かあった？」
- 「必ず力になるから、相談してね」
- ★相談できる関係の構築が大事

##### ②進行期（休みはじめ、1～2週間）

本人も行かなくちゃいけないとわかっているのに、身体症状が強い、朝起きられない等で休んでしまう時期

- 身体症状があれば小児科受診を勧める
- 保護者に決して怒らないように話す
- 本人に会えるなら、本人に聴く
- 保護者から本人の状態を聴く

##### ③混乱期（心に葛藤が吹き荒れている）

###### ア 低学年

- ・母子分離不安が原因の場合もある
- ・家で赤ちゃん返りの行動が出現  
(試し行動、防衛機制、育ち直し)
- 可能なら母と一緒に登校
- 十分に甘えさせてあげて伝える

- ・自分の葛藤に気付けない場合が多く、言葉で気持ちを表現することが不十分

★原因追究よりも、本人が安心感を抱き、自由に表現できる人間関係構築が大事

###### イ 高学年

「今まで登校できていた自分」というアイデンティティーが崩れ、混乱している状態。

現実を受け入れ難く、激しく葛藤  
↓  
昼夜逆転、暴れる、抑うつ状態

- ・少しの安心が心理的安定に
- 保護者・教師が受容的に関わる
- ・不眠や精神的症状
- 精神科受診をお勧めしても良い

##### ④回復期

身体症状がなくなる、笑顔が多くなる、外出ができるようになる

- ・休んでいる自分を徐々に受け入れられるようになると、心が落ち着いてくる
- ・やってみたいことを本人と確認する
- 主治医やSC、保護者と情報交換し、タイミングよく提案する

★小さなチャレンジから始め、チャレンジできたら認め、一緒に喜ぶことが大事

## 2 家族・親の関わり

### (1) 機能不全家族

子どもが発達課題をクリアしていけるような支えや関わりが機能していない家族

- ・乳幼児期の発達課題（信頼感）や児童期の発達課題（程よい自己肯定感・自己効力感、等身大の自尊感情）が達成されていないと、負荷がかかったときに乗り越えることが困難 → 学校不適応に

### (2) 愛着障害

何らかの理由で養育者との愛着が形成されず、子どもの情緒や対人関係に問題が生じてしまう障害

#### ① 愛着の育ち

ア 安全な避難所（多くの場合は母親）

- ・共感して抱きしめてもらえると、辛い気持ちは自己制御されて耐えられるようになり、愛着も形成される

イ 安心の基地（多くの場合は母親）

- ・勇気をもらい外の世界にまた出ていける
- ・またチャレンジできる

#### ② 起きやすい 子どもの問題行動

- ・弱い子へのいじめ ～惨めさを埋める行動
- ・共感性の欠如 ～メンタライゼーション必要
- ・暴力 ～無力感の補償・暴力への同一視
- ・嘘をつく ～自己肯定感の低さ
- ・反抗的 ～過酷で一貫性を欠きネグレクト
- ・自傷行為 ～心の痛みを体の痛みで紛らわす
- ・性非行 ～受け止めてくれる存在への依存
- ・盗み ～愛情飢餓、妬み、良いものを奪う

#### ③ 愛着に問題のある子どもへの関わり

- ・長期的な安定した関わり
- ・他者を信頼できる体験
- ・情緒的な交流ができる
- ・共感性の育ち  
共感してもらう経験なしに共感性は育たない
- ・リラクセーション
- ・ずっと見守ってくれている存在

## 3 レジリエンス

### (1) 6つの要素

- ①自分の軸 ②しなやかな思考
- ③対応力 ④人とのつながり
- ⑤セルフコントロール ⑥ライフスタイル

### (2) 自己肯定感

自分を肯定的に受け入れられている

#### ① 自己肯定感を持っている子

- ・自信が持てる・積極的になれる
- ・失敗にくじけない・プラス思考ができる
- ・楽観性がある・対人関係の満足度が高い

#### ② 自己肯定感を高める関わり

- ・悔しい気持ちや悲しい気持ちを聴く
- ・切り替えたり、励ましたりしてあげる
- ・ポジティブ思考に目を向ける
- ・「結果」よりも「過程」に目を向ける

▲万能感を維持させるような褒め方

×「やれば何でもできる」

### (3) 自己効力感

自己が自己の行為の主体である  
自己の行為を自己が統制できている  
外部の要請に自己が対応できている  
【自己選択/自己コントロール/承認感】

#### ① 自己効力感を持っている子

- ・生き生きとして、自分は最後まで努力し続けることができるという感覚を身につけられる

#### ② 自己効力感を高める関わり

- ・自己選択・自己決定を尊重する
- ・スモールステップで成功体験を重ねる
- ・役に立てている体験で人とつながる

### (4) 自尊感情

自分のあるがままを受け入れ、自分を大切にできる気持ち  
自分の存在そのものを尊いと感ずる

#### ① 自尊感情を持っている子

- ・他人も尊重できる
- ・不登校、いじめ、自殺予防等に  
必要不可欠な感情

## V おわりに

不登校の陰には、現実と対峙し、現実の自分を受け入れる辛さが隠れていることを再認識した。それらをゆっくりと受け入れて成長していく子どもたちのために、解決を急がない、話を聴く、気持ちに寄り添う、よく理解する……「子どもが自分の力で未来を切り開いていけるよう、支え続ける学校でありたい」と決意を新たにした研修であった。

**4月11日(金) 10:00 (学習センター)**

- 1 本会役員選出
- 2 令和7年度の運営について
- 3 県連小・東北連小・全連小への参加体制について
- 4 令和7年度教育実習生の受け入れについて
- 5 体育施設備品費、吹奏楽器整備費等配当について
- 6 弘済会、共励会研究助成校の確認
- 7 校長会申し合わせ事項について
- 8 会員名簿、元校長訃報について
- 9 校長会歓迎会について
- 10 令和7年音楽教室について
- 11 社会科副読本について
- 12 情報交換(年度当初の課題・教育課程等)
- 13 専門部会

**5月9日(金) 9:50 (学習センター)**

- 1 県連小各担当諸会議報告等
- 2 教務主任研・主任等法規研修会について
- 3 校長・教頭候補者模擬面接実施計画、若手育成研修会について
- 4 市小教研事業計画について
- 5 令和7年度吹奏楽発表会について
- 6 諸会議参加に係る経費負担について
- 7 令和7年度第1回小学校体育連盟評議員会
- 8 中心協議(特別支援教育)
  - 講話「発達障がい等の特別な教育的ニーズのある児童を支援する  
校内特別支援教育体制の充実に向けて」
  - 講師：山形大学 准教授 川村修弘氏
- 9 専門部会

**6月6日(金) 10:00 (学習センター)**

- 1 県連小各担当諸会議報告等
- 2 市校長会役割委嘱諸会議報告等
  - ・市理科教育センター運営委員会より
  - ・市教育研究所第1回運営委員会より
  - ・青少年育成連絡協議会より
  - ・社会を明るくする運動について
- 3 令和7年度子ども造形展・なかよし作品展について
- 4 読書感想文・感想画コンクールについて
- 5 校長会主催人材育成・若手育成研修について
- 6 校長登用試験模擬面接について
- 7 若手教員研修会について
- 8 SC配置について
- 9 情報交換

- ・市委嘱公開研究会について
  - ・教育課程、生徒指導事案、熱中症対策について
- 10 県連小発表(学校経営部)
  - 11 中心協議(幹事)
    - テーマ「学力向上を目指した算数指導の在り方」
    - 講話「学力向上のための校長の役割とは」
    - 講師：宮城教育大学教職大学院  
算数教育教授 市川 啓 氏

## 12 専門部会

**7月11日(金) 10:00 (霞城公民館)**

- 1 県連小各担当諸会議報告等
- 2 市校長会役割委嘱諸会議報告等
  - ・市読書感想文コンクールについて
  - ・青少年育成市民会議総会について
  - ・市P連の諸取り組みについて
  - ・理科研究発表会・作品展について
- 3 校長登用試験模擬面接について
- 4 若手育成研修等について
- 5 小体連に係るアンケートについて
- 6 諸作文コンクールについて
- 7 専門部会より(外部講師招聘研修共有)
- 8 情報交換
  - ・生徒指導について
  - ・教育課程、生徒指導事案、熱中症対策等
- 9 専門部会
- 10 中心協議(行財政部会)
  - テーマ「第7次山形県教育振興計画を見据えた  
学校経営のあり方」
  - 講師：山形大学学術研究院 教授 三浦 登志一 氏

**9月9日(火) 10:00 (ファーラ)**

- 1 県連小各担当諸会議報告等
- 2 市校長会役割委嘱諸会議報告等
  - ・教務主任研修会・主任等法規研修会報告
  - ・教育条件整備について
  - ・共同印刷について
  - ・校長会「会誌」について
  - ・こころの劇場について
- 3 管理職候補者への講話・若手教員研修会の報告
- 4 東北連小秋田大会より
- 5 今後の小体連事業について
- 6 専門部会より(外部講師招聘研修共有)

- 7 情報交換 i (生徒指導について)
- 8 中心協議 (中学校と合同・学校経営部)  
 テーマ「『心の天気』導入の基本姿勢・運用について」  
 講師：山形市教育委員会 ICT 教育推進係  
 エデュコムご担当の皆様
- 9 情報交換 ii (2 学期の教育課程や課題について)
- 10 専門部会
- 10月10日(金) 10:00 (学習センター)**
- 1 県連小各担当諸会議報告等
  - 2 市校長会役割委嘱諸会議報告等
    - ・市読書感想画コンクール実施要項について
    - ・読書感想文コンクールについて
    - ・山形市を美しくする運動について
    - ・理科研究発表会について
    - ・諸誌代について
  - 3 校長・教頭補模擬面接について
  - 4 第2回若手研について
  - 5 吹奏楽地域展開について
  - 6 令和8年度教育課程に関わって
  - 7 情報交換 (生徒指導について)
  - 8 中心協議 (生徒指導部)  
 テーマ「不登校防止対策と不登校児童への具体的な  
 対応～校長に期待すること～」  
 講師:山形駅前カウンセリングオフィス所長  
 山形県公認心理師・臨床心理士協会会長  
 山形市教育委員会教育委員 伊藤洋子 氏
  - 9 専門部会
- 11月7日(金) 13:15 (学習センター)**
- 1 中心協議 (教育課程部)  
 テーマ「本気の幼小接続 (学びの接続) に向けて  
 2 人の園長が熱く語る」  
 講師：大谷幼稚園長 時田 厚 氏  
 山形大学附属幼稚園長 高梨 明恵 氏
  - 2 県連小各担当諸会議報告等
  - 3 市校長会役割委嘱諸会議報告等
    - ・教育条件整備懇談会について
    - ・認知症サポーター講座、社会福祉大会報告
    - ・令和8年度小学校演劇教室開催について
    - ・令和8年度の市全体に関わる事業 (案)
    - ・第2回教務主任研修会について
    - ・令和7年度校長会運営アンケートについて
    - ・校長模擬面接について
- ・山形市教職員研修への市小教研専門部会からの参加について
- ・令和8年度入学式日程について
- 4 情報交換 (生徒指導について)
- 12月12日(金) 13:15 (学習センター)**
- 1 県連小各担当諸会議報告等
  - 2 市校長会役割委嘱諸会議報告等
  - 3 校長会会計中間報告
  - 4 母校実習受け入れについて
  - 5 教頭候補者二次模擬面接について
  - 6 令和8年度市小学校長会日程について
  - 7 共同印刷について
  - 8 市小教研社会科部会について
  - 9 吹奏楽講習会について
  - 10 情報交換 (生徒指導について)
  - 11 中心協議 (幹事会)  
 テーマ「R7市小学校長会まとめとR8展望について」
    - ・アンケートの結果より
    - ・教育課程、修学旅行について
  - 12 専門部会
- 1月9日(金) 13:15 (学習センター)**
- 1 県連小各担当諸会議報告等
  - 2 市校長会役割委嘱諸会議報告等
    - ・山形市を美しくする運動について
    - ・第2回教務主任会について
    - ・令和7年度給食可能日について
    - ・県食育推進協議会について
  - 3 校長・教頭候補者模擬面接の総括について
  - 4 市小教研について
  - 5 情報交換
    - ・生徒指導について
    - ・次年度の教育課程について
  - 6 専門部会
- 2月6日(金) 13:15 (学習センター)**
- 1 県連小各担当諸会議報告等
  - 2 市校長会役割委嘱諸会議報告等
- 3月6日(金) 13:15 (学習センター)**
- 1 県連小各担当諸会議報告等
  - 2 市校長会役割委嘱諸会議報告等
  - 3 次年度校長会計画
- 3月25日(水) 16:30**
- 1 会計報告
  - 2 感謝の会

## R7山形市小学校長会活動方針

山形市小学校長会は、不易と流行を見極め、教育を取り巻く諸課題の解決に精力的に取り組んでいく。更に、教育活動全体を通じたウェルビーイングの向上のため、持続可能なビジョンと仕組みの構築にも継続的に挑戦していく。

また、教育課題に係る現状の把握と分析に勉め、根拠を明確にしたうえで改善の方向性について提言のできる組織をめざす。県都であり中核市である山形市の潜在力を最大に引き出し、「感動・感謝・信頼にあふれた学校づくり」に向けて、組織一丸となって活動を推進していく。

### I 今年度の重点 「持続可能で、将来性のある教育の仕組みづくりへの挑戦」

- 1 教育課題の解決に向けた関係機関との協働と実践的な取組の推進
- 2 多様性を尊重した持続可能な学校経営につながる人材育成の推進

### II 山形市全体に関わる組織活動

#### 1 次の教育課題の改善に向けて校長会全体で取り組む。

##### (1) 人材育成（・中心協議 なし 情報交換）

- ① スクールリーダー、ミドルリーダーの育成
  - ・学校内OJTの検討
  - ・校長会主催研修（・教育課程部会 ・幹事会）
- ② 専門性のある人材の育成（・市小教研との連携）
  - ・各教科 ・特別支援教育 ・生徒指導 ・市小教研の意義確認
- ③ 新採時からの計画的なキャリアアップの仕組み
  - ・学校内OJTの検討
  - ・近隣校との連携 ・優良研修等の情報共有
- ④ 専門性のある人材の情報を共有し、活用を通じた育成の取組推進

##### (2) 学校経営の充実（中心協議：7教振 6月 行財政部 ：学校経営 7月 学校経営部）

- ① 積極的にICTを活用した教育実践と校務効率化の推進…情報教育部（仮）の新設（後期）
  - ・校務支援ソフトの有効活用に向けての市教委との連携
  - ・児童用タブレットや電子黒板の授業における効果的な活用
- ② 適正な危機管理の定着
  - ・感染症や自然変動への適切な対応のための情報共有と具体的な手立ての検討
  - ・コンプライアンスの徹底と公立学校としての適正な対応の普及

##### (3) 特別支援教育の推進（中心協議 5月 特別支援教育部）

- ① 「市特別支援教育計画」に係る市教委との連携
- ② 切れ目のない支援の実効性向上と関連機関や特別支援学校との連携充実
- ③ 特別支援教育の人材育成の仕組みの改善、整備について教育行政への要望

##### (4) 学力の向上について（中心協議：算数科の改善 6月 幹事会 ：教育課程 11月 教育課程部）

- ① 市全体の学力についての現状分析（各校の情報の共有）
- ② 市全体の推進施策、授業改善研修などの在り方の検討

##### (5) 市全体の事業の持続可能な形態や内容の検討（中心協議 なし）

- ① 体育・文化・研究会等の持続可能な在り方についての検討
  - ・持続可能性 ・将来的な必要性 ・児童の資質能力の育成の視点での優先順位
  - ・教職の魅力向上と優秀な人材確保への取組 ・働き方改革の推進

##### (6) 生徒指導の充実について（中心協議：不登校対策 10月 生徒指導部 ・情報交換 毎月）

- ① いじめ・不登校等の生徒指導上の問題についての実態把握と対策の検討
- ② 保護者や他機関との連携の在り方と効果的対応の検討

## 2 定例校長会議での教育課題に係る全体協議を通して、課題解決に資する。

- (1) 中心協議を担当する専門部は、事前に幹事会と連携して、情報収集に基づく話題提供や必要に応じた講師依頼を行う。
- (2) 協議のねらいや協議の論点を明確にするとともに、グループディスカッションと全体協議とを効果的に設定し、学校経営の見通しが持てるようにする。

## 3 関係機関との連携を図り、持続可能な事業展開への道筋をつける。

- (1) 市教委や関係団体などと連携しながら、今後の市全体の事業のあり方を検討する。
- (2) 市教委や教育研究所との連携を図り、教職員の資質向上に資する研修のあり方を検討する。
- (3) 市教委や関係大学と連携しながら、今後の教育実習・教員育成のあり方を検討する。
  - ・特に人的環境の改善について、学校の窮状を伝え改善策を共に模索したい。
- (4) 山形市中学校校長会・上山市小学校校長会との連携を深め、情報交換により見識を広げる。

## 4 危機管理（感染症、災害など）の迅速な情報共有と対応についての市教委、市長部局との連携

- (1) 熱中症・感染症等の状況把握や防災についての情報共有を図る。
- (2) 児童の安全確保を一番に考えながら、状況に応じた柔軟な教育活動を行う。
- (3) 保護者との連絡体制について検討し、情報提供や緊急対応がスムーズに行えるようにする。
- (4) 公立学校としての適切な事故対応（いじめ・不登校・不祥事を含む）ができるようにする。

## 5 各専門部は、重点活動を明確にして活動を推進することにより、校長会で取り組むべき今日的な教育課題への改善に寄与する。

- (1) 各専門部の課題を焦点化して取り組み、成果を報告して共有すると共に、新たな提案を行うなどして課題解決に努める。
- (2) 各専門部の課題意識を生かした中心協議を設定し、全体研修の充実を図る。
- (3) 働き方改革やSDGsといった今日的課題の改善の実践の積み上げ。（ペーパーレス化等）

### 《研究大会での分科会発表割り当て一覧》

年 度	分 科 会	課題研究プロジェクト部
R 5	東北大会発表 II 教育課程	生徒指導部
R 6	発表なし	な し
R 7	県大会発表 I 学校経営	学校経営部
R 8	発表なし	な し
R 9	全国大会発表 II 教育課程	(教育課程部)
R10	発表なし	な し

## Ⅲ 各学校園における経営の充実 - Only One の学校園経営 -

山形市教育大綱（H28.11 策定）、山形市教育振興基本計画（H30.3 策定 R4 改訂）に基づき、山形市教育委員会発行「学校教育の重点目標 指導の指針【平成28年度から10年間】」に添って、感動・感謝・信頼にあふれた自律的な学校づくりに努める。

そのために、校長会として以下の点について共通理解を図る。

- 1 全ての活動が、児童・職員を中心としてウェルビーイングに通じるものとなっていることが前提であることを共通理解する。
- 2 市小学校長会として同じ対応をすることと学校裁量で対応すべきこととの意思統一を図る。
- 3 学校規模や地域の実情などの差異をお互いに理解し、各校のカリキュラムが最大限に優先されるように配慮する。

# R7 組織と係分担

## 1 役員

- (1) 会長 大城 勝利  
 (2) 副会長 古原 靖子、富樫 朗  
 (3) 幹事長 小林 聡  
 幹事 石澤 友章、山口 雅和、黒原 裕一、高橋 浩、菱川 若葉  
 (4) 監事 早坂 和重、高梨 明恵

## 2 幹事係分担

- (1) 渉外 ○市小教研関係・教頭会 …………… 古原副会長  
 ○小体連関係 …………… 富樫副会長  
 (2) 企画推進 ○校長会運営等に係る諸課題への対応 …… 小林  
 ○人材育成 …………… 山口、石澤、高橋浩、菱川  
 ○教育課題への対応 …………… 情報化：石澤、特支：古原、学力：山口  
 (3) 庶務 ○庶務全般 …………… 小林、高橋浩  
 ○県連小会報及び諸誌等関係 …………… 黒原  
 (4) 会計 ○一般会計 …………… 高橋浩  
 ○別途会計 …………… 菱川  
 (5) 県連小、東北連小、全連小関係庶務 …………… 黒原

## 3 専門部

専門部名	内 容	部員 (◎部長、○副部長、□担当幹事)
1 学校経営部 (R7 県大会発表)	◇ 教職員が生きる学校経営の推進 ① 様々なキャリアステージの教師を生かすチーム体制のあり方 ② 学校における働き方改革の推進について研究する。 ③ 学校における情報教育の推進について研究する。	◎鎌田、鈴木章、馬場 ……情報 遠藤、大沼、森山、早坂 ……経営  □大城、石澤 …………… (計9名) ※後期から、学校経営と情報教育に分ける
2 教育課程部 (R9 東北大会発表)	◇ 新学習指導要領のカリキュラム・マネジメントの推進と次代育成 ① 各校の教育課程の情報を収集・分析し、魅力ある教育課程編成についての研究を深める。 ② 主任等法規研修会及び教務主任研修会を実施し、ミドルリーダーの育成を図る。	◎鈴木伸、中村、武田重、山科 小沼  □富樫 …………… (計6名)
3 生徒指導部 (R4 県大会発表) (R5 東北大会発表)	◇ 豊かな人間性を育てる生徒指導の推進 ① 児童理解を深め、関わり合う力の育成を目指し、提言できる活動に努める。 ② 学校と家庭・地域・異校種・関係機関との連携・接続を密にした生徒指導の推進を図る。	◎樋渡、須藤、三浦、晋道 佐藤勝、森谷  □山口 …………… (計7名)
4 健康教育部 (R2 県大会発表)	◇ たくましく生きる子どもの育成 ① 健康・安全教育の推進を図るための研修及び情報の収集に努める。 ② 県連小大会の研究 課題「危機管理と校長の役割」についてまとめ、発信する。	◎結城、高梨、武田裕 樋口  □小林、高橋浩 …………… (計6名)
5 行財政部 (28 県大会発表)	◇ 学校における教育効果を高め、働き方改革を進める学校教育諸環境の整備 ① 学校経営・施設設備・教育環境等の課題を明確にし、教育効果を高めるための人的・物的・財政的な諸条件の整備・充実に努める。 ② 学校教育諸活動や教育条件の整備について、県連小・県中合同対策委員会・市中学校長会・市小学校長会幹事会との連携を深める。	◎豊田、沼澤 高橋和、太田  □黒原 …………… (計5名)
6 特別支援教育部 (令2 新設)	◇ 特別支援教育の現状や課題を調査し、課題改善に向けた今後の方向性を示す。 ① 全会員の協力による調査により、小学校の特別支援教育に関わる現状や課題について客観的なデータをまとめる。 ② 調査によって明らかになった課題について研修し、校長会全体に発信する。 ③ 課題を改善するために、行財政部会、市教育委員会、特別支援学校などの関係機関と連携して働きかけを行う。	◎三木、村山 横山  □古原、菱川 …………… (計5名)

#### 4 役割分担（複数の時は先頭が代表・委員長）（カッコ内は担当窓口等）

##### (1) 校長会関係

- ① HP担当 . . . . . 鈴木章
- ② 会誌編集委員 . . . . . ◎武田重、○三木、高梨、森山
- ③ 共同印刷関係 . . . . . 大沼

##### (2) 各種教育機関運営委員等

- ① 山形市教育研究所運営委員（市学校教育課） . . . . . 黒原
- ② 山形市総合学習センター運営協議会委員（市学校教育課） . . . . . 古原（副会長）
- ③ 山形市理科センター運営委員（市学校教育課） . . . . . 山口
- ④ 山形市教育支援委員（市学校教育課） . . . . . 古原
- ⑤ 山形市幼・保・小連絡協議会委員（市学校教育課） . . . . . 三浦
- ⑥ 山形市立図書館協議会委員（市立図書館） . . . . . 高梨
- ⑦ 山形市社会教育委員（市社会教育青少年課） . . . . . 樋渡
- ⑧ 山形市少年自然の家運営協議会委員（市少年自然の家） . . . . . 山口
- ⑨ 山形市地球温暖化対策推進委員会委員（市環境課） . . . . . 馬場
- ⑩ 山形市要保護児童対策地域協議会委員（市こども福祉課） . . . . . 横山
- ⑪ 山形市放課後子どもプラン運営委員会（市社会教育課） . . . . . 晋道（大曾根）、鈴木章（学童該当校）
- ⑫ 山形市子ども・子育て会議委員（市こども未来課） . . . . . 沼澤
- ⑬ 山形市児童遊戯施設ベッコ広場運営委員会委員（市こども未来課） . . . . . 沼澤（九小）  
コパル（山形市南部） . . . . . 遠藤（南山形小）
- ⑭ 山形市食育・地産地消推進市民懇話会理事（市農政課） . . . . . 森山
- ⑮ 山形市いじめ防止対策推進委員会委員 . . . . . 大城（会長）

##### (3) 生徒指導関係

- ① 村山地区青少年育成連絡協議会構成員（村山総合支庁子ども家庭支援課） . . . . . 樋渡
- ② 村山地区交通安全対策協議会（村山総合支庁総務課） . . . . . 須藤
- ③ 山形警察署管内学校警察連絡協議会委員（山形警察署生活安全課） . . . . . 須藤
- ④ 山形市青少年問題協議会委員（市社会教育青少年課） . . . . . 三浦
- ⑤ 「社会を明るくする運動」山形市実施委員会（市社会教育青少年課） . . . . . 三浦
- ⑥ 山形市青少年指導センター運営協議会委員（市社会教育青少年課） . . . . . 樋渡
- ⑦ 山形市青少年育成市民会議理事（市社会教育青少年課） . . . . . 森谷
- ⑧ 子ども育成会連合会関係（市社会教育青少年課） . . . . . 佐藤勝
- ⑨ 山形市を美しくする運動推進委員（市環境課） . . . . . 佐藤勝
- ⑩ 山形市交通安全推進協議会委員（市市民課） . . . . . 森山
- ⑪ 山形市交通指導員親交会（市市民課） . . . . . 森山

##### (4) 給食関係

- ① 山形市学校給食委員会委員（市学校給食センター） . . . . . 沼澤、結城
- ② 山形市学校給食献立作成委員会委員（市学校給食センター） . . . . . 沼澤、結城

##### (5) 学校保健関係

- ① 山形市学校保健会理事（市教委学校教育課） . . . . . 高橋浩
- ② いのちの教育推進懇談会推進委員会委員（市教委学校教育課） . . . . . 高橋浩（① 理事）
- ③ 山形市健康医療先進都市推進協議会委員 . . . . . 大城（会長）、村山（養教部会部長）
- ④ いのち支える自殺対策協議会委員（市健康増進課） . . . . . 高橋浩

##### (6) 体育・スポーツ関係

- ① 山形市スポーツ推進審議会委員（スポーツ振興課） . . . . . 富樫（市小体連会長）
- ② 山形市体育・スポーツ総合推進本部委員（スポーツ振興課） . . . . . 富樫（市小体連会長）
- ③ W杯女子ジャンプ大会実行委員（スポーツ振興課） . . . . . 富樫（市小体連会長）
- ④ 山形市民スポーツフェスタ実行委員会（スポーツ振興課） . . . . . 富樫（市小体連会長）
- ⑤ 山形市スポーツ少年団本部役員（市総合スポーツセンター） . . . . . 晋道
- ⑥ 山形県スポーツ少年団本部員（県スポーツ会館） . . . . . 晋道
- ⑦ 山形県小学校体育連盟連絡協議会役員（会長）（県小体連事務局） . . . . . 富樫
- ⑧ 山形県スポーツタレント発掘事業実行委員会委員（県実行委員会） . . . . . 富樫

##### (7) 山形市小学校体育連盟関係

- ① 会長 . . . . . 富樫
- ② 副会長 . . . . . 高橋浩、晋道
- ③ 監事 . . . . . 早坂、高梨

## (8) 福祉関係

- ① 山形市民生委員推薦委員（市生活福祉課）・・・・・・・・・・ 大城（会長）
- ② 山形市社会福祉審議会委員（市生活福祉課）・児童福祉専門分科会（市子ども未来課）・・・ 中村
- ③ 山形市社会福祉事業団運営協議会委員（山形市福祉事業団）・・・・・・・・ 山科（蔵王二・山形学園）
- ④ 山形市社会福祉協議会評議員（山形市社会福祉協議会）・・・・・・・・ 中村

## (9) 男女参画関係

- ① 山形市男女共同参画審議会委員（市男女共同参画課）・・・・・・・・・・ 森山
- ② 山形市次世代育成会議（市男女共同参画課）・・・・・・・・・・ 早坂
- ③ 山形市男女共同参画センター運営委員会委員（市男女共同参画センター）・・・・・・・・ 山科

## (10) 山形市小学校教育研究会

- ① 会 長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 古原（副会長）
- ② 副会長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 鎌田
- ③ 監 事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 早坂、高梨

## (11) 特別支援教育関係の研究協議会担当校

- ① 県小・中学校特別支援教育研究会・・・・・・・・・・・・・・・・ 古原
- ② 特別支援学級設置校代表者会・・・・・・・・・・・・・・・・ 三木

## (12) 山形県連合小学校長会関係

- ① 会 長・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 樋口
- ② 幹 事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 大沼、横山、佐藤勝、  
太田、高橋和、小沼、森谷
- ③ 理 事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 大城（市長）
- ④ 対策委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 豊田、高橋和、太田
- ⑤ 生徒指導委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 樋渡、佐藤勝、森谷
- ⑥ 研修委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 鈴木伸、横山、小沼
- ⑦ 山形県教職員互助会評議員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 樋口（県会長）

## (13) 村山教育事務所管内地区校長会関係

- ① 代表者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 大城（会長）

## (14) その他 ※印は女性指定

- ① 山形市PTA連合会理事（副会長）（市P連事務局）・・・・・・・・ 遠藤
- ② 「小さな親切」常任理事（公社「小さな親切」運動山形県本部）・・・ 樋口
- ③ 県教育共励会評議員（一財 教育共励会事務局）・・・・・・・・ 黒原（市幹事）
- ④ 山形県青少年赤十字（JRC）指導者協議会理事（日本赤十字社山形県支部）・・・ 遠藤（加盟校）
- ⑤ 県北方領土返還促進協議会（山形市に割当）・・・・・・・・・・ 小沼
- ⑥ 県教職員生協幹事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 三木※
- ⑦ 県犯罪のない安全で安心な街づくり推進会議・・・・・・・・・・ 須藤
- ⑧ 県障がいのある人もない人も共に生きる社会づくり県民会議委員・・・・・・・・ 横山
- ⑨ 国立療養所山形病院重度身障施設協力会・・・・・・・・・・・・ 高橋告（金井小）
- ⑩ 県学校保健連合会理事・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 村山
- ⑪ 県学校食育推進会議／地産地消推進本部・・・・・・・・・・・・ 古原※
- ⑫ スポーツ少年団代議員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 晋道
- ⑬ 山形県社会教育委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 古原※
- ⑭ 「子どもの健康づくり連携事業」「がんの教育総合支援事業」連絡協議会・・・ 晋道
- ⑮ 県交通安全対策協議会委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 須藤
- ⑯ 県社会を明るくする運動推進委員・・・・・・・・・・・・・・・・ 三浦
- ⑰ 租税教育推進協議会委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 森谷
- ⑱ 県教育会館評議員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 三木
- ⑲ 県教職員互助会運営委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 大城
- ⑳ オールやまがた若者定着推進会議・・・・・・・・・・・・・・・・ 早坂
- ㉑ 県家庭教育支援推進委員会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 樋渡※

令和7年度 山形市小学校長会のメンバー 38名

山形市立第一小学校	石澤 友章
山形市立第二小学校	大沼 清司
山形市立第三小学校	高橋 和久
山形市立第四小学校	樋口 潤一
山形市立第五小学校	太田 千春
山形市立第六小学校	富樫 朗
山形市立第七小学校	小沼裕佳理
山形市立第八小学校	豊田 博之
山形市立第九小学校	沼澤 聡
山形市立第十小学校	樋渡美千代
山形市立南小学校	横山 聡
山形市立西小学校	小林 聡
山形市立東小学校	古原 靖子
山形市立鈴川小学校	鈴木 伸治
山形市立千歳小学校	森谷 弘昭
山形市立金井小学校	高橋 浩
山形市立大郷小学校	鎌田 史顯
山形市立明治小学校	中村 昌彦
山形市立出羽小学校	武田 重泰
山形市立楯山小学校	佐藤 勝子
山形市立高瀬小学校	菱川 若葉
山形市立山寺小学校	武田 裕子
山形市立東沢小学校	三木 弥生
山形市立滝山小学校	大城 勝利
山形市立桜田小学校	須藤 克郎
山形市立南沼原小学校	山口 雅和
山形市立宮浦小学校	結城 喜広
山形市立蔵王第一小学校	鈴木 章人
山形市立蔵王第二小学校	山科 典子
山形市立蔵王第三小学校	三浦 浩子
山形市立南山形小学校	遠藤 克裕
山形市立みはらしの丘小学校	馬場 賢
山形市立本沢小学校	黒原 裕一
山形市立西山形小学校	森山 謙一
山形市立村木沢小学校	村山 理香
山形市立大曾根小学校	晋道 康史
山形大学附属小学校	早坂 和重
山形大学附属幼稚園	高梨 明恵